

富陽っ子のよりよい成長をめざして

～後期学校評価 結果の分析と今後の方策～



野々市市立富陽小学校
校長 古村 充

冬の寒さが一層厳しく感じる今日この頃、みなさまには、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、2学期末にお寄せいただいた学校評価アンケートの結果とその分析、今後の方策についてお知らせいたします。

【肯定的評価の見方】 A評価「できている(よくそう思う)」 B評価「どちらかといえばできている(だいたいそう思う)」

	評価項目	目標値	児童	保護者	今年度 前期比
			A+B 評価 (A 評価)		
1	自分にも友達にも良いところがあると思いますか。	95%	98.2% (78.3%)	—	+0.8
2	学校は楽しいですか。	95%	92.3% (65.6%)	—	-1.7
3	学校だよりやホームページなどを通して、学校の様子が分かりますか。	90%	—	93.6% (39.8%)	+8.2
4	クロームブックを使って書いたり調べたりまとめたりすることができますか。	95%	96.3% (69.6%)	—	-2.8
5	低学年：考えのわけを表現していますか。	90%	86.8% (47.5%)	—	-4.7
	中学年：考えのわけか根拠を表現していますか。	90%	85.1% (36.8%)	—	-3.4
	高学年：考えのわけと根拠を表現していますか。	90%	86.2% (37.9%)	—	+3.4
6	相手を見て自分からあいさつができますか。	90%	91.9% (48.0%)	—	-1.4
7	子どもや地域住民、見守り隊の方に対して、子どもたちの手本となるようなあいさつができていますか。	90%	—	93.8% (38.9%)	+3.6
8	学校行事や児童会活動、学級活動では、自分の役割を果たし、「自分は頑張ることができた」と思いましたか。	95%	95.3% (65.1%)	—	+0.5
9	学校行事や児童会活動、学級活動では、友達の良さや頑張りを見つけることができましたか。	95%	94.2% (62.9%)	—	-0.8
10	体育の授業で、積極的に体を動かすことができましたか。	95%	96.1% (76.1%)	—	+0.9

【今年度前期比較】

5%以上プラス・100%維持

2%以上～5%未満上回る

差が2%未満

2%以上～5%未満マイナス

5%以上マイナス

「学校は楽しいですか」

「自分にも友達にも良いところがあると思いますか」について

今年度、本校では教職員が一丸となって「みんなを幸せにする」「みんなで幸せになる」を重点目標に掲げ、教育活動に取り組んでおります。その中で、児童の「自分にも友達にも良いところがある」の項目は、前期と同様に目標値を大きく上回る結果となりました。

児童の成長と幸せに働きがいを感じられる、子どもファーストの職員集団をめざし、3学期も引き続き児童の思いや困り感に共感しながら、児童一人一人が自分のよさや1年間の伸びを自覚できるような教育活動に教職員全員で努めて参ります。そして、今後も富陽小学校ホームページの「新着情報」の項目に、学校の取組の様子やお便り等を更新したことをお知らせします。(なお、児童の活動写真につきましては、個人情報保護のため個人が特定できないように掲載していることをご理解ください。)

学習面について

児童の「クロームブックを使って書いたり調べたりまとめたりすることができる」の項目は、前期と同様に目標値を上回る結果となりました。授業だけではなく、委員会・クラブ活動など、さまざまな場面で積極的に活用してきた結果だと思えます。3学期も継続して、一人一台端末を様々な場面で活用し、児童が自分の考えをより良く表現できるようにしていきます。

児童の「根拠や理由をもとに考えを表現できる」の項目は、低・中・高学年全て、目標値には届きませんでした。3学期は、特に根拠と理由を意識し「どこからわかるの？(根拠)」「なぜ・どうしてそう考えたの？(理由)」と意図的に問い返し、「考えの根拠や理由がはっきりして、より説得力があるね。」などと児童の良かった点を積極的に評価し価値付けながら児童の表現力を高めていきます。

生活面について

児童の「相手を見て自分からあいさつができる」と、保護者の「子どもや地域住民、見守り隊の方に対して、子どもたちの手本となるようなあいさつができる」の項目は、共に目標値である90%を越える結果となりました。保護者の皆様、地域の皆様、学校が一体となって、子ども達のお手本となるあいさつに取り組んできた結果だと思えます。

3学期も教師の率先垂範となるあいさつ(自分から)と素敵なあいさつを褒め認めていくことを継続していきます。さらに、授業や給食の始めと終わりのあいさつや、「ありがとう」「ごめんなさい」といった相手への一言も、最後まで丁寧にできているかを見取り、粘り強い働きかけを通して、よりよいあいさつの習慣化に取り組みます。

学級活動・児童会活動について

児童の「自分は頑張ることができた」の項目は、前期達成値を上回る結果となりました。学校行事や児童会活動、学級活動を通して、学校生活をよりよいものにしようとする意欲の高まりを感じます。

3学期は、まわりへの感謝の思いを伝えることを大切にしていきます。クラスや友達のためになる頑張りが見られた時には、「みんなのためにありがとう」といった自己有用感につながる言葉を教師が率先して児童に伝えていくことで、児童同士が積極的に伝え合う姿をめざしていきます。

運動について

児童の「体育の授業で、積極的に体を動かすことができた」の項目は、前期と同様に目標値を上回る結果となりました。授業だけではなく、休み時間も運動場や体育館で同学年や他学年の仲間と元気に体を動かす姿が見られます。3学期は、「なわとびチャレンジ」の取組を全校で実施していきます。1月12日(金)には、県立大学教授の宮口和義先生と元シルクドソレイユ団員の田口師永先生をお招きしたなわとび学習を行い、児童の運動に対する意欲を高める場となりました。今後も安全面に十分配慮したうえで、積極的に体を動かせるような環境づくりに努めます。

保護者及び地域の皆様、今後とも本校の教育活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。